国立市議会議員＊無所属　一人会派

上村和子 活動レポート

うえむら　かずこ

こぶしの木 No.84
第３（９月議会）/ 第４定例会速報
2020年11月25日発行

速報！

第４定例会
一般質問（11月４日）

コロナ禍の中で 人権と日常の暮らしを守る施策を！

～永見市長に取り組み方針を聞きました～

国立市議会議員　上村和子

私たちの日常を大きく変えてしまった新型コロナウイルス感染症の問題は、感染だけでなく経済活動の停滞や人との接触の縮小が、人々の社会生活全般に深刻な影響を及ぼしています。

第３波の感染拡大も進みつつあり、今後さらに深刻な状況が予想される中、一般質問では永見市長に、住民のいのちと暮らしを守る第一線である自治体の長として今後どのように取り組んでいくのか、基本的な方針を聞きました。

上村　職員は減らすのではなく増やして育てることが重要

市長　全体で配置のバランスを取る

上村　コロナ禍への対処では自治体職員の働きがとくに重要で、職員は増やして十分に働けるよう育てるべき。正職員は人権意識を持ち、ワンストップ（※）で働ける人を。非正規の会計年度職員は、大半が女性で、保育士や司書など基本的に専門職として重要な業務を担っている。市民にそのことを周知してほしい。

※1か所でさまざまな用事が足りるということ。行政においてはサービスによって分かれていた窓口を1か所で行えるようにする。

市長　職員はむやみに減らすとは考えていない。一部の専門職を市が設置する事業団による雇用など質の確保をしながら非正規化し、その分の定数を職員の足りない部署に配置するなど、全体でバランスを取っていく。

会計年度職員は大事。専門性の高い職員が正規へ移っていけることをやっていかねばならない。

上村　コロナ禍を乗り越えるための財政の基本的考え方を問う

市長　弱い立場の人にしわ寄せしない

市長　しわ寄せがいく所に対して、いかにそれを緩和しながら、明るい、生きていくことは嬉しい、元気な国立をつくっていくという観点の財政運営が求められる。億単位の減収が予想され、財政は非常に逼迫すると思われるので材料は限られるが、弱い立場の人にしわ寄せがいかない解決を念頭に置いて財政運営を行っていく。

上村　窓口はＩＴでなく職員で

市長　さまざまな社会的ニーズに対応するため人が対応する窓口は必要

上村　行政経営方針に窓口業務のＩＣＴ化が入っているが、市役所の窓口はすべてワンストップの最前線。ＩＴではなく、その力を持つ職員を配置して対応すべきだと考えるが、どうか？

市長　機械が使いこなせない人こそ様々な社会的ニーズを抱えている。そこで相談された内容が各方面につながっていくような感度を持った窓口は、必ず置き続けなければならない。そこに市役所の生命線があると思う。

機器を通してできる人には、ＩＣＴで効率性を図ることが考えられる。両方をセットしなければならない。

上村　「当事者ぬきに当事者のことを決めない」人権施策の継続・推進を

市長　当然、推進する

上村　「当事者ぬきに当事者のことを決めない」という人権施策を継続・推進してほしい。また、その視点が抜け

（２面中段につづく）